

# 培良タイムス

ホームページアドレス <http://www.kyotanabe.ed.jp/nc21/bairyō-jh/>

令和2年3月12日(木)

第12号 最終号

京田辺市立培良中学校

TEL 62-9363

## 令和元年度 学校評価等

校長 山下博史

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月2日午後から臨時休業措置が継続中ではありますが、明日の卒業式を控えた3年生の皆さん、また在校生の皆さん、そして保護者の皆様お元気でお過ごしでしょうか？まだまだ先の見えない状況ではありますが、どうか手洗いやマスクをして、コロナウイルスをふっとばしてください。さて、今年も、学校の年間の様々な取組を評価し、来年度の教育活動に反映していく時期がやってきました。保護者や地域の方々のご理解やご支援も賜りましたが、計画していた行事や取組が一部実施できませんでしたが、実施した行事はすべて成功裏に終わっています。やはり3年生の頑張りが体育大会や文化発表会等で光り、その姿を手本に、1・2年生がしっかりとついていった1年間だったと感じます。

そして、3学期には、2年生の修学旅行の取組や、1年生の職業調べの取組の中で、確実に成長の跡が見られたことは、来年度に向けて頼もしい姿でした。

生徒指導状況も昨年同様、全体として落ち着いて推移し、問題行動の件数も、毎年右肩下がりで減少しています。いじめの件数についても同様です。いじめに関しては、年間3回の調査で、「からかう・軽くぶつかる」等の、事象は数件ありましたが、すべて、指導し解決しています。生徒会が作った『いじめ追放宣言』・『スマホ・ネット宣言』は、その精神が風化しないように、今後も生かしていきたいと思えます。

### 生徒アンケートから



生徒に46項目の質問をして、その結果をまとめました。(質問項目と生徒の回答の合計数はホームページに掲載しています。ご参照ください。)生徒は、多くの項目で、高い評価をしています。経年比較をどうとるかを少し考えなければなりません。質問項目によっては、評価が低いものもあります。ただ、この数年、年々評価が伸びてきていたので、やや頭打ちになった感があります。いくつか傾向ごとにピックアップして説明したいと思います。

## 学校が楽しい



「学校が楽しい」という項目の評価が、年々、少しずつ上がってきています。今年度、全校合計（そう思う・ほぼそう思う・の合計%、以下同様）では86%で、昨年度より1%上がりました。学校が楽しいという項目は、生徒が学校に通ってくる一番基本的なことですし、

学校の魅力を総合的に表している項目です。楽しいという言葉には、勉強、部活、人間関係など様々な要素があり、難しい面もありますが、教職員で、

さらに魅力的な学校づくりの論議を進めていきたいと思っています。ただ、「そう思わない」と思っている生徒が昨年度の1.7倍の4%（10名）いることを忘れてはならないと考えています。



## 授業・学習指導について



授業に関しては、引き続き評価は高く、また、昨年度と比べ上昇しています。「授業はわかりやすい」は91%で、昨年度は85%でしたので6%の上昇です。「学校は一人一人にわかるような手立てをしている」は78%で、昨年度は74%でした。各教科について「授業が楽しい」と答えている生徒は、学年・教科によって違いがありますので一概には言えませんが、全学年の各教科の割合は次のようになります。

国語（84%）、社会（88%）、数学（80%）、理科（70%）、音楽（89%）、美術（93%）、体育（87%）、技術（94%）、家庭（89%）、英語（84%）となっています。

今後、生徒の学力向上のために『主体的・対話的で深い学びのある授業』を目指し、さらにユニバーサルデザインの研修等を深め、実践していきたいと考えています。

「コンピュータやテレビを使った授業」は94%で、昨年度より2%ダウンしましたが、94という数字は誇れると思います。教師が授業の中で、大型タッチパネルを使って、英語の発音を真似たり、グーグルアースで世界の隅々を俯瞰したり、各教科担当が独自に作成した資料を表示したりすることが、授業の当たり前の風景になりつつあります。



また、家庭学習ノート(自主学習ノート)を利用した、家庭学習の習慣づくりも、

学力向上に寄与しています。「平日に家庭で学習を全くしないか、しても30分未満」の生徒は8%で、京都府の平均を大きく下回っていますが、昨年度は6%だったので、今年度は少し残念な結果となっています。特に3年生は、この数字が7%で、昨年度の3%と比べると、家庭学習の習慣をもう少しつけておかないと高校生になったときに苦勞すると思います。3年生がんばれ!! 努力は「足し算」だぞ。



また「学習塾に通っていない」と答えた生徒が38%いることを考えると、授業がいかに大切であるかを浮き彫りにしています。もちろん授業だけでは力つきませんので、家庭で学習することが大切になります。毎日の積み重ねができる培良中学生を育てなければなりません。

## 道徳・読書の充実



この2つは、本校が、数年前から重点的に努力してきた項目です。2つとも高い評価となっています。

「読書に親しめる機会がある」の項目は、全校で85%でした。昨年度よりは少し下がりました。決して読書嫌いがいるとは思っていませんが、来年度は朝読書について「てこ入れ」が必要だと考えます。ぜひ子どもたちにも、この中学生の時期に人生の土台を築ける読書に親しんでほしいと思います。

「道徳の時間はいろいろ考えられる」は90%と、昨年度よりアップしました。

道徳の時間の充実に加え、毎回の道徳ノートやワークシートで、生徒の意見や考えを、学級や生徒自身にしっかりと返していることも、高い評価につながっていると思います。



今年度（令和元年度）は中学校で、道徳が教科化され評価も年度末通知表に書き込まれます。

今まで培ってきた培良の道徳教育を基本に、さらに、活発な意見交流ができるような道徳の授業を実践していきます。



## 気になる質問項目

「学校は困っていることに対処してくれる」は84%で、昨年度より3%上がりましたが、16%の子どもたちが「そう思っていない」ことは引き続き来年度への課題です。「学校は自分が努力したことを認めてくれる」は84%で、昨年度より2%下がりました。これを上昇させるために、これまで以上に生徒理解や教育相談を進めていく必要があると考えています。

また、「生徒会の『スマホ・ネット宣言』を実践している」は59%で、昨年と比べ若干上昇しています。が、全校生徒の約半分の人しか実践していないことは、取組に少し改善の余地がありそうです。それに比べ「いじめ追放宣言を実施している」は84%です。「いじめ」は自分事としてとらえられている人が多いことが分かります。また、生活アンケート等で、夜更かし、ネット・ゲームに費やす時間が長いなどの実態も明らかになっています。



ネットとの付き合い方や就寝時間等、家庭でもご指導願います。

良い意味で、特に気になることとして、「ボランティア活動に参加できる機会がある」は78%で、昨年度の39.5%から倍増しています。これは2学期に実施したB-Flowerプロジェクトの成果だと考えられます。「ボランティアには参加したいけれどその機会がない」と思っている生徒が多かったということでしょう。来年度さらに発展させ、ボランティア活動の機会を周知していければと考えています。



## 保護者アンケートから



全体的には高い評価（達成されている・ほぼ達成されている・の合計%、以下同様）をいただいています。昨年度に比べて、下がった項目がいくつかあります。この結果で一喜一憂することはないのですが、来年度は一つでも評価が上がるように努力していきます。

学校と家庭の連携に関わる項目は、「学校は教育の目標や方針をわかりやすく伝えている」は74%で、昨年より4%減りました。「家庭への連絡や意思疎通が図られている」は1%減の82%。「保護者の参観の機会が適切に設けられている」は1%増の91%です。保護者アンケートで一番低い数字は「学校のホームページをよく見ている」の30%です。学校HP色々なことを発信しています。どうぞご覧ください。

また、「学校は服装・挨拶等、社会のルールを適切に指導している」という項目が5%減の83%となりました。思春期の生徒を指導するうえで、大変重要な項目です。生徒指導上の課題をしっかりと把握して、今後もしっかりとした社会人に育てたいと決意を新たにしています。

少し気になる項目として、「家庭と連携して家庭学習に取り組めるよう工夫している」は昨年度より5%下がって、65%です。「子どもが家で学習する時間が増えている」は5%下がって59%です。どちらも他の項目と比べると達成%は低く、また子供たちとの意識の乖離が少しあることが見受けられます。

教職員は、学校での活動だけでなく、地道な家庭訪問、家庭連絡を積み重ねて参りました。今後もさらにご家庭との連絡を密にして、信頼される学校づくりに努めていきます。

また、評価が低い項目については、もう一度学校全体で、取組等を検討していきます。

今年度も、保護者の皆様には、本校の教育に多大なご理解、ご支援を



賜りました。厚くお礼申し上げますとともに、来年度も変わらぬご支援を  
よろしく願いいたします。